



電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)  
ニューズレター (2013年度 No. 2)  
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆FIT2013 (第12回情報科学技術フォーラム) 開催のご報告
- ◆HCGシンポジウム2013開催のご案内
- ◆2014年総合大会投稿のご案内
- ◆研究会活動報告 (HCS研究会)
- ◆研究会活動報告 (HPB研究会)

---

FIT2013 (第12回情報科学技術フォーラム) 開催のご報告  
HCG企画幹事  
大塚真吾 (神奈川工科大)

---

第12回情報科学技術フォーラム FIT2013が平成24年 9月 4日 (水) から 6日 (金) まで、鳥取大学鳥取キャンパスにおいて開催されました。

FIT (Forum on Information Technology) は、情報処理学会 (IPSJ) と電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ (ISS) 及び ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) との合同で開催されるフォーラムで、活気ある議論と企画、他分野研究者との交流などの実現を目標としています。

今年で12回目となるFIT2013は、講演論文集掲載数 約704件、イベント企画数 13件となり、多くの発表者、参加者が集まる盛大な会となりました。講演会場は多くの参加者で埋め尽くされて活発な議論がなされていました。

FIT学術表彰式においては、FIT2012ヤングリサーチャー賞8編、FIT2013論文賞2編、FIT2013船井ベストペーパー賞3編、FIT2013船井業績賞の表彰が行われ、引き続き、FIT2013船井業績賞を受賞されたRubyアソシエーション理事長のまつもと ゆきひろ氏により「Rubyが成し遂げたこと」というタイトルの受賞記念講演があり、Rubyの歴史に関する貴重なお話を伺うことができました。

また、今年度からの新たな試みとして、一般発表のセッション毎に座長の裁量で優秀な発表を1件程度表彰するFIT奨励賞が設けられ、一般セッションにおいては、例年以上に質の高い発表が行われました。

会期中のイベント企画としては、「身近になったライフログ」、「ビッグデータ時代到来！～ウェブ最先端企業が最新動向を語る～」、「学びを科学する：MOOCsでCloudなBig DataをLearning Analytics！」、「国際情勢の変化から見るサイバー攻撃～その本質を探る～」などが開催され、講演会場は沢山の参加者で埋め尽くされて活発な議論がなされており、参加者の最新技術の動向への関心の高さがうかがえました。

次回 (FIT2014) は、2014年 9月 3日 (水) から 5日 (金) まで、筑波大学 筑波キャンパスで開催されます。奮ってご発表、ご参加ください。

---

HCGシンポジウム2013開催のご案内

HCG企画幹事  
大塚真吾 (神奈川工科大)

---

電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) として毎年12月恒例となりました HCGシンポジウムの開催をお知らせ致します。

会 場：松山市総合コミュニティセンター  
(<http://www.cul-spo.or.jp/comcen/>)  
会 期：2013年12月18日 (水) ～20日 (金)

事前参加締切：2013年11月30日 (土)

副 題：「人々の生活を幸せで豊かにしていく ICTとコミュニケーション」

最新情報につきましては下記をご覧ください。  
<http://2013.hcg-symposium.org/>

昨年度を上回る 112件 (口頭発表80件、インタラクティブ発表のみ32件) の申込があり、運営委員会では多くの方にご発表いただけることを大変うれしく思っております。今回は全ての口頭発表者に対してインタラクティブ発表枠を付与しましたので、時間を気にせずに活発な議論を行うことができます。これからの時代の流れを新たに作り出すパワーを生み出す場となるよう、委員一同準備を進めておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さらに本シンポジウムでは2件の招待講演と1件の企画セッションを予定しておりますので、お知らせいたします。招待講演・企画セッションとともに、皆様の口頭発表とインタラクティブ発表も活発な議論が行われると期待しております。

招待講演1：12月19日 (木) 12:25-13:35  
伏木 亨先生 (京都大学 農学研究科)  
「おいしさの構造と客観的評価」

招待講演2：12月19日 (木) 15:05-16:15  
豊田正史先生 (東京大学 生産技術研究所)  
「大規模Webデータと実世界データの融合 (仮)」

研究会企画セッション：12月19日 (木) 13:50-14:50  
CEA研究会 (食メディア (第2種) 研究会)

シンポジウムでの活発な研究議論とともに、愛媛大学にて開催される懇親会・HC表彰式にもぜひ御参加ください。なお、観光協会からのご支援により、事前登録を行った学生の懇親会費は1,000円といたします。事前に懇親会参加の申し込みが必要ですのでお忘れのないようお願いいたします。

なお、シンポジウム会場はJR松山駅と伊予鉄松山市駅から徒歩圏内です。また、市内は路面電車が走っており、懇親会会場の愛媛大学、中心部の大街道、松山城、道後温泉への移動もスムーズに行うことができます。HCGシンポジウムでは、新しいことを生み出す場となることを目標としております。様々な分野から多くの方にお集まりいただき、御発表、御議論いただくこと、さらにシンポジウムを十分に楽しんでいただきたいと思います。皆さま、奮って御参加ください。

## 2014年総合大会投稿のご案内

HCG企画幹事  
今井順一（千葉工大）

電子情報通信学会では、例年春と秋に大会を開催しております。特に春にはヒューマンコミュニケーショングループ（HCG）を含む4ソサイエティ、1グループが一堂に会して総合大会を開催いたします。2014年の総合大会は新潟大（新潟市）において開催されますのでご案内申し上げます。

会 期：2014年 3月18日（火）～21日（金）  
会 場：新潟大（新潟市）  
懇親会：3月19日（水）夜（キャンパス内食堂にて開催予定）

講演申込開始：11月 8日（金）  
講演申込締切：1月 8日（水）  
聴講申込開始：1月 9日（木）  
聴講申込締切：2月17日（月）

最新の情報は下記のURLをご参照ください。

[http://www.toyoag.co.jp/ieice/G\\_top/g\\_top.html](http://www.toyoag.co.jp/ieice/G_top/g_top.html)

総合大会並びにソサイエティ大会では、優秀な論文を発表した方の中から学術奨励賞を選定しております。学術奨励賞は電子工学および情報通信に関する学問、技術の奨励のために有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈するものです。平成24年度学術奨励賞授賞式は2013年総合大会で行われ、70名の方々が表彰されました。

また、例年総合大会では多数の企画セッションが開催されます。2014年総合大会においても61件の企画セッションが提案され、開催に向けて準備が進められています。HCG関係では、ヒューマン情報処理研究会（HIP）、未来世代から見たコミュニケーション科学の魅力と学習意欲向上研究会（CML）より下記 2件の企画セッションが予定されております。

- ・『空間感性』を拡張する人間情報処理研究の最先端（HIP）  
オーガナイザ：坂本修一（東北大学）
- ・（結）楽しい学び実現？—コミュニケーションの基本の理解の上—  
（CML）  
オーガナイザ：小粥幹夫（魅力と意欲の研究会）

ご参考までに、岐阜大（岐阜市）で開催された2013年総合大会では、参加者5,159名、公募講演申込数は2,737件で、いずれも質の高い研究成果が発表され、活発な議論や意見交換が交わされました。皆様のご講演申込、並びにご参加を心よりお待ちしております。

## 研究会活動報告（HCS研究会）

HCS研究会委員長 渡辺昌洋（NTT）  
同 副委員長 伊藤京子（大阪大）  
同 副委員長 松田昌史（NTT）

HCS研究会は、人間のコミュニケーションの特性を理解し、それを支援するための通信技術にかかわる基礎的研究を発表する場の提供を目的としています。年5回の定例研究会を開催しており、各回20件程度の研究報告が行われます。研究報告では質疑時間を十分に用意することを特徴としており（通例、発表20分・質疑10分）、厳しいながらも建設的なコメントが多く寄せられ、活発な議論の行われることが常です。同時に、学術分野の門戸が広く開放されていることも盛況な議論に寄与していると考えられます。工学（インタフェース、ロボット、システム、数理）、認知科学、脳神経科学、心理学（社会、発達、知覚、感情）、社会学、人文学（哲学、文化人類学）、医療・看護学などの研究者が一同に介し、熱心に議論する場は国内にそれほど多くないと自負しております。異分野からの素朴な疑問が問題の本質に切り込んだり、他分野の問題意識が自身の研究のヒントになることなどが頻繁に起きています。

2013年1月には「コミュニケーションの心理および一般」をテーマとした研究会を開催し、顔や表情の認知機能、言語対話の年齢変化（幼児期から高齢者まで）、拡張現実などについて研究発表が行われました。3月には浜松市の温泉宿で合宿形式の研究会「HCSワークショップ：場のデザインおよび一般」を開き、コミュニケーション環境における人々の振る舞いや新たな環境の提案などが行われました。5月にはHIP研究会共催・HI学会SIGCE研究会連催で「コミュニケーション支援および一般」を行い、コミュニケーション行動の基礎的検討と共にあるべき介入方法の議論がなされました。8月にはVNV研究会と共催で「コミュニティとコミュニケーションおよび一般」を催し、実験室を飛び出した現実場面や実践場面におけるコミュニケーションを対象とした研究が多数発表されました。

本ニューズレター発行直後の11月9日には「感情とコミュニケーションおよび一般」を大阪大（豊中）で開催します。通常の研究発表の他、同大学で研究開発の行われているアンドロイドロボットの見学会を実施予定です。ぜひともご参加下さい。さらに、2014年2月1日～2日には鹿児島大において「コミュニケーションの心理とライフステージおよび一般」を開催いたします。申込締め切りは11月11日と直前のアナウンスで恐縮ですが、みなさまのご発表を歓迎いたします。

以上、限られた紙幅ではありますが、HCS研究会の学際的で多様な研究会活動について紹介させていただきました。皆さまには、本研究会の活動をご支援いただくとともに、ご自身の研究推進の場としてご利用いただければ幸に存じます。

研究会WEBサイト

<http://www.ieice.org/~hcs/wiki/>

研究会活動報告 (HPB研究会)

HPB研究会委員長  
岩井将行 (東京電機大)

HPB研究会は、2009年より活動を続けている第2種研究会です。近年、センサ技術やMEMSの発達により、人が携帯したり装着できるセンサデバイスが普及し、スマートフォンの普及などとともに「人がセンサを持ち歩く」ことが当たり前な時代になりました。本研究会では、人が持ち歩くセンサを活用し環境や自分自身を計測するセンシングを“Human Probe (人間による計測)”と名付け、データの収集方法、様々な応用サービス、プライバシーやセンシング活動の促進手法などの研究を分野横断的に進めています。

HPB研究会では、例年 2回ほどの研究会を開催しております。2009年 7月の東京大での研究会を皮切りに、これまで 9回の研究会を開催してきました。最近では、2013年 6月に富山県立大で開催し、富山大の堀田教授による「コンパクトシティ富山におけるスマートICTを活用した付加価値創生」と題した基調講演や 6編の研究発表、脳波インタフェースを研究されている富山県立大の唐山研究室の見学などを行いました。2012年11月には、初主催のシンポジウム「ヒューマンプロブの新たな展開」を東京大にて開催しました。当日は、MSRAのDr. Xing Xie, 慶應義塾大の徳田教授、東京大の柴崎教授他をお招きし、都市におけるモビリティおよびセンシングに関して、多面的な観点から議論しました。

研究会を通じた他国との技術交流にも力を入れております。2011年には、タイにてICHPSSを開催しました。バンコクで行われている車車間通信を用いたヒューマンプロブの紹介がありました。2013年 3月の研究会は中国無錫にて開催し、日本からの発表だけでなく、“Sensing China”を実践する中国の研究者からの発表も多数あり、技術交流を深めました。今年からは研究会においても発表言語を英語とし、アジアを軸に国際展開を進める予定です。

スマートフォンの普及とともに、ヒューマンプロブはより現実的となり、実用的な技術とともに社会的な問題も含めた総合的な議論が必要になると考えています。本研究会が、今後登場するであろう様々な新しい研究を議論、発展させられる場になるよう、活動を続けてゆきたいと思っています。

ヒューマンコミュニケーションングループ研究会・関連行事について、詳しくはHCG ホームページ<http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。

電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーションングループ  
Copyright (c) 2013 IEICE, All Rights Reserved.

☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨henkou@ieice.orgまで会員

番号、氏名をご連絡ください。処理に 1ヶ月程度かかりますので、入れ違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。  
(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨henkou@ieice.orgまでご連絡下さい。)  
ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice  
(社) 電子情報通信学会 サービス事業部  
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659